國學院大學学術情報リポジトリ「K-RAIN」

報告 「関西学院における理念の継承のありかた」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田淵, 結 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00002092

【報告１】

関西学院における理念の継承のありかた

田淵　結氏（関西学院大学　教育学部教授・関西学院宗教総主事）

（司会）　第２部からは、各大学の取り組みについてご報告をいただきます。最初は関西学院宗教総主事・関西学院大学教育学部教授の田淵結先生でございます。宜しくお願いいたします。

ご紹介いただきました、関西学院大学の田淵でございます。今日はどうぞ宜しくお願いいたします。最初に若干、お断りとお詫びを申し上げます。少しスライドに追加がございます。出来の悪い学生が再提出をするような話ですが、ちょっと最初は、こちらのほうを御覧いただければと存じます。

最初に大学の紹介をさせていただきます。関西学院大学は、大雑把な言い方をしますと、現在３つのキャンパスに11の学部を持つ、23,000人くらいの学生さんがお集まりになっている学校です。創立は1889年（明治22年）で、その時はまだ大学ではございませんでしたけれども、現在は神学部から理工学部まで数多い学部・キャンパスを有しております。

それで、お手元のレジュメには入っておりませんけれども、ここで少し、寄付行為等からご説明させていただきます。寄付行為の最初で、「この法人は教育基本法及び学校教育法に従いキリスト教主義に基づいて教育を施す」ことが目的となっております。また、大学の学則の第１条も、「本大学は、学校教育法及び教育基本法の規定するところに従い、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶することを目的とする」とありますね。どちらにも「キリスト教主義」ということが宣言をされております。

ただ、そこで考えさせられますのは、その「キリスト教主義に基づく人格の陶冶」ですとか、「キリスト教主義に基づく教育」ということと、教学・研究とが、一体どういう関係があるかということが、これではあまり、はっきりしないと思います。

結局は、「人格の陶冶」というあの言葉が最後に来るのですが、それを目的とするということで言いますと、つまり関西学院の教育は、所謂教養課程・専門課程を積み上げて、専門性の高い学生を輩出するということと同時に、「人格の陶冶」ということを大きな土俵にして、その上に専門教育を置くのだと。ですから、全体が教養教育となる。それは、先程も話にありましたように、科目等がたくさん並んでおりますけれども、むしろ人格形成・人間形成みたいなところを大きなポイントにして行くので、まあキリスト教主義というのはそこに

関わると言えます。

ただし、ここで「キリスト教主義」という言葉がありますが、ここは、厳密に申し上げますと、キリスト教の「信仰」ということではございません。キリスト教の持っております人間観・価値観とか、そういうものに基づいた人間性を育むということが、この場合言われております。

さて、関西学院は、昨年2014年の９月に125周年を迎え、この間おいでいただいた方もあるかも知れませんが、その式典を催させていただきました。それを中心にした前後10年間で関西学院の在り方をもう一度確定しようということで、2009年からの取り組みとして、まず「21世紀ミッションステートメント」を策定する。それからガバナンスの改革を行う。これは、教学と経営、理事長・学長というところを一体化する方向性を打ち出すといったことです。それから、グローバル化ということを具体的な形で進めて行くということで、昨年関西学院大学はSGU（Super Global University）としてお認めいただきました。また、関西学院は高校が二つあるのですけれども、関西学院高等部はSGH（Super Global High School）の取り組みが現在進んでおります。更に、今から６年前に合併になりました千里国際という学校がありまして、ここは、インターナショナルスクールと一緒にやっている学校ですけれども、そこではIB――IBDP（IB Diploma Programme）を進めております**【スライド２】**。

そして、これら全部を、ミッションステートメントに基づいて組み立てようということで、現在のGrubel院長を中心としてミッションステートメントの起草が行われております**【スライド３】**。ここにその文章がございますけれども、ここでも「キリスト教主義に基づく」という言葉と、”Mastery for Service”という言葉と、「世界市民」という言葉ですね。

先程の基調講演でも、こうした理念というものは「どこでも一緒やろ」というような――すみません、私すぐ関西弁が出てしまうんですが――「どこでも同じではないか」ということがよく言われるのですけれども、やはり、関西学院らしいキーワードは入れましょうということで、少し長くなってしまいました。

この中で関西学院が果たすべき「ミッション」を伝えるということなのですが、実は関西学院125年の中でも、ミッションという言葉には大きな変化がございます**【スライド４】**。最初は「ミッションスクール」というふうに申しておりましたから、これはどちらかというとキリスト教の伝道とか布教とか、そういうことをメインにして創られた学校というイメージがございました。先程申し上げましたように、当初は神学部、キリスト教の教職者養成のコースと、普通学部――これは中学部で、現在の中学部と高等部の間くらいでしょうか――そこで人格教育ということが行われるわけで、どちらかというと布教活動・伝道活動がメインということがありました。

ところが、文部省の認定を受けて学校としての歩みを続けて行きます中で、当時のベーツという院長は、もはや“Mission School”ではないと。“School with the Mission”だ、というふうに言います。学校としてのミッションを持っていますと。

そこで、キリスト教の「主義」ということが改めて注目され、やはり教育というものを前面に出した上で、それを支えるキリスト教の理解である、というかたちになってまいります。

そこで、まず、ミッションステートメントのキーワードの一つ目である“principles of Christianity”、これは学院が創られました1889年に最初に創られた「学院憲法」に――本来英文で書かれたものを日本語に訳したのですけれども――「キリスト教の主義により、日本の青年子女を教育する」というふうに書かれております。キリスト教の「主義」、キリスト教の信仰とか精神ではなく、「主義」というところが重要です。英語では“principle”、小文字の“principle”です。

ここでいう「主義（principle）」というのは、何かひとつ「これだ」というのではなくてですね、キリスト教が持っている、色々な価値観というものを広く捉えて、その全体の中で教育を行うということです。それが「キリスト教主義（principles of Christianity）」である、ということなのです。

次にキーワードの二つ目である「世界市民」ですが、これは創始者であるアメリカ人の宣教師ランバスにちなむ言葉です。

このランバスという人は、関西学院に留まったのは最初の設立の準備期間を除くと５、６年という非常に短い期間で、すぐにアメリカに行ってしまいます。その後、彼はオーストラリアと南極を除く世界の大陸で様々な活動をいたしました。そういう、世界的に活躍するということを評価して、ランバスのことを「世界市民」と呼んで、記念されているわけです。

その言葉を私たちは取り入れまして、関西学院を卒業して世界中で活躍できる人材を育成したい、という願いを込めております。ただし、それは何も、各地にどんどん出かけて行く人たちというだけではなくて、自分の場所、日本の場所に留まりながらも、そういう視野を持って活躍できるような視野を持っていることを含めて、「世界市民」と呼んでおります。

以上が、最初の院長ランバスを記念する、「キリスト教主義」と「世界市民」です。

そして、三つ目、“Mastery for Service”というのは何かと申しますと、これは第四代院長のベーツという、カナダ人の宣教師で、1910年以降関西学院に関わって参りました方が提唱したものです。

なぜカナダ人宣教師がアメリカ人の創った学校に一緒になって来たかと言いますと、これは1899年（明治32年）の「訓令第十二号」の影響がかなり大きゅうございました。その中で、実は関西学院に大きな議論がございまして、所謂学校、つまり文部省の認定する学校としてやって行くか、あるいはキリスト教を中心とした私塾として行くのかという大きな議論があったのですが、その時にベーツは、やはり教育機関として、社会の要請に応える教育を行える学校として位置づけるべきだと主張したのです。

関西学院の歴史には、非常に面白い特徴がございまして、40年単位で動きます。1889年に学校ができました。最初の20年で「訓令」を前にして様々な大きな議論がありました。その次の20年で学校としての位置づけがはっきりいたしましたので、要

するに最初の20年は小さな私塾であったのが、次の20年で、当時の専門学校令による専門学校、それから高等学部、そして1929年、その当時は最初神戸にあった学校を西宮に移して大学を作ると。最初の20年で私塾だったのが、あとの20年で大学まで作ったわけです。これは、まあ大学令の動きもあったのですが。

そして、そのトータル40年、最初の40年で、関西学院の様々な基礎が築かれたと、いうふうになっております。

というわけで、その第四代院長のベーツが提唱したスクールモットーが、“Mastery for Service”です。先程申しましたように、「訓令第十二号」の危機からの転換を象徴するスクールモットーであり、つまり学校としての歩みへ踏み出したものです。

ベーツは凄く面白い人でして、この間、学院の中でそのお話をしたら、前の院長から、ちょっとご注意をいただいたのですけれども――「君はあまり物事を単純化しすぎる」と言われたのですけれども、どうもアメリカ人の宣教師は、どちらかというと、キリスト教的な立場でも保守的になるんだと。それに対して、カナダ人の宣教師は結構進歩的といいますか、リベラルであったなと感じたものですから、アメリカ人の保守性と、カナダ人の合理性みたいなことを話しましたら、「それは君、単純化しすぎだよ」と叱られたわけですが、ただ、結果としてそう見えるところはあります。

ベーツがいた当時、学校はまだ神戸にありました。神戸は当時の日本最大の貿易港です。そこで、関西学院に学ぶ学生たちのためにビジネススクールを作ったのですね。それまでは神学校だったのが、ビジネススクールを作ることによって、学校は大きく発展するわけですけれども、その時の高等学部商科、高等商業で学んだ学生達のモットーとして与えたのが――それが現在の関西学院全体のモットーになっているわけですけれども――“Mastery for Service”という言葉であったというわけです。

これは何が面白いかと言うと、ぱっと見、キリスト教的な匂いがあまりない。ですから、現在私たちの職員の間でも、「私はキリスト教はよく分からない」とか、あるいは「好きになれない」という人でも、「けれども“Mastery for Service”は好きだ」という人は多いですね。今「ぱっと見」と言いましたのは、一見して、割と誰にでも受け入れられるモットーだからです。しかし、これをキリスト教の世界に戻して考えると、非常にキリスト教的な発想になるわけですね。

なお、今日は本学のパンフレット『輝く自由　関西学院　その精神と理想』も資料としてお配りしております。ちょっと100部しかお持ちできませんでしたので、もし足りませんでしたら、仰っていただければまた後ほどお届けいたします。この中には、先程申し上げましたランバスやベーツのこと、私たちがミッションステートメントを掲げました背景などが記してございますので、ご参照いただければと思います。

さて、関西学院は、そういう意味では、はっきりと「キリスト教主義」という言葉があり、また”Mastery for Service”という言葉が掲げられ、それらが建学の理念あるいは精神として、スクールモットーとし

て定着しておりますので、そういう意味では、これをどう伝えるか、と言うことが、私たちにも課題として与えられているわけですね。

そこで、先程申し上げました10年計画の中でそのことを考えました時に、これを私たちが言う教養教育の、ひとつの大きなコアといいますか、大きなテーマとして展開する。もちろんそれ以外にも、他の一般的な教養と言われるような科目もたくさんございますけれども、そういうものを含めてやって行こうと考えております。

そのために三つの段階を考えまして**【スライド５】**、第一段階は、いったい私たちのスクールモットー、建学の精神は何だろうということについて、再確認をするということですね。その発信のために、先程ご紹介しましたこのパンフレット、『輝く自由』を編集して、たくさんの方にお配りすることをいたしました。大体５万部くらい作って、入学者・保護者の方にみんな配布しました。教職員にも配る、同窓会にも持って行く。関西学院はこういうような学校ですということをお知らせする、ということをいたしました。

そして、それを大体３年乃至４年続けまして、一昨年前くらいから、第二段階として、それをどう理解するか、また具体的なプログラムとしてどう展開するかということで、最初の基礎理解から、少し発展形にして参ります。

まず自校教育プログラムですね。IRと一部言って宜しいんでしょうか、活用して自校教育を行う。それから、先程申し上げましたように、関西学院はキリスト教主義によって125年前に設立されましたから、聖書とかキリスト教を教えるのは当然なのですけれども、それを何か教義的な、キリスト教プロパーの科目ではなくて、自校教育として位置づけましょう、ということです。ですから、自校教育の中で「関西学院の拠って立つものはなにか」ということ、大きなテーマで言いますと「関学とは何か」を語るキリスト教育ということになっております。

それから、チャペルというのは、これは「礼拝」というふうにも言うのですが、「礼拝」といいますと、「私はクリスチャンじゃないから」とか、「私は違うから」とか仰る方もおられますし、またグローバルを号しますと、必ず多宗教、あるいは他宗教の立場の方もおられますから、これは、キリスト教というのを押しつけるという意味ではないのだということで、チャペルと言っております。

まあ「チャペルと言い換えたところで同じじゃないか」と言われればそうなのですけれども、そういうことがありますので、「礼拝」というふうにはなかなか申しません。「チャペル」というふうにして、出来るだけ抵抗を少なくして学生さんに来ていただく、ということをお願いしております。

そして、最後は、これはまさに、ドンピシャで「関学学」というふうに言いまして、「キリスト教学」は必修科目、「関学学」は選択科目ですけれども、全学共通で、二つのキャンパスをターゲットにして、学生さんに、関西学院の歴史等を学んでいただきながら、関西学院がどういう学校かというのを、そちらから勉強するということをしております。

こういうことを踏まえた上で、来年く

らいから第三段階の実践型プログラムを作って行こうと考えております。どういうことかと言いますと、「関西学院で学ぶということは、具体的にどういう人間を作るのか」「どういう人間になれるのか」ということを、学生たちに体現させるプログラムとして、KG-LEMSというものを開発中です。これはKwansei Gakuin Leadership Embodying “Mastery for Service” Programで、ちょっと長いですが、それを約めてKGLEMSということになります。関西学院を出た人が、様々な形でリーダーシップを発揮する時に、その関西学院らしい在りよう、“Mastery for Service”ということを考えるリーダーシップを作ろうということで、これを手始めに大学から、そして先程言いましたように、社会・世界に及ぼして行く教育を展開したいと考えて、現在、カリキュラムを構成中であります。

詳細を次のスライドに示しましたが**【スライド６】**、先程話しましたからこの辺は簡単にいたしますけれども、「キリスト教学」は、初年次教育科目として必修（２学期間４単位）、これは割と大講義型の授業になっておりますので、どこまで聴いてもらえるかというのは判りませんけれども、学院のキリスト教「主義」の基礎理解を、全員にお話しするということです。

それと「チャペル・アワー」を併せまして、全体で建学の精神を理解するということになります。一応、年４回、全学の学生を集めて特別プログラムをするのですが、大体１年生だけでも5000人おりますし、その上キャンパスが３つありますので、実のところ、物理的にはかなり無理があるのが正直なところです。5000人を集める場所がありませんので、やるときは1500人くらいのホールに一杯くらいで、まあたくさん来たなというくらいですから、その辺がちょっと、現在の課題となっております。

それから「関学学」は、スライドに少しレジュメを――小さいサイズで申し訳ありませんが、簡単なものを、シラバス的なものを紹介しますが**【スライド７】**、125年の歴史の中で、大きなトピックとなったこと。たとえば、ミッションスクールとしての成り立ち。それからスクール・オブ・ミッションとしての展開。それから戦時中のこと、大学紛争のこと、現在の関西学院の課題等々、学長・院長含めてですね、担当者が講義をするということになっております。

それから、先程の基調講演の中で、勉強するだけでも時間がないじゃないかというお話がございました。ですが、関西学院はその教養教育を、人間教育として行う。ですから、どうしても教室の中での座学ということだけではなくて、様々な学生達の自主的な活動ということを奨励して参りました。

それが非常にはっきりしましたのが、1995年の、今年はちょうど20年目になりますけれども、阪神淡路大震災でありまして、関西学院も被災校になりました。15名の学生さん達の命を失いましたし、現職の教員の方、職員の方、それからOBの方、たくさんの方々と、私たちはお別れしなければならなかったということがございました。１月17日ですね。

そのことを含めて、関西学院の中で、自主的にボランティア活動が組織されて行きました。これは主に学生達が集まってきて

やろうというところに、教員も協同して一緒にやったわけですけれども、そのときに合い言葉になりましたのが、「今こそあなたのMastery for Serviceを」という言葉で、これがバンと掲げられました。ところが、この言葉を誰が書いたか判らない。誰かが書いたんです。誰かが書いたのですけれども、その人が誰なのか、今判らないんです。けれども、こういう言葉の中に、例えばボランティア学生が集まって、避難所のお世話をするとか、子供相手に遊ぶとか、キャンプするとか、色々なことをやりましてですね、危機的な状況を克服したということですね。ですから「こういうものを通して、私たち社会にサービスする。社会に奉仕をするということの主体となって行くんだ」ということを、彼らが自分で学んで行っているのですね。

こういうことを踏まえた教育を、今、展開しております。来年くらいから、大学のボランティアセンターもきちんと改組して、その辺の見直しをやろうということになっております。

また、先程お話しましたKG-LEMSですけれども、リーダーシップ感覚を育てるという時に、関西学院ならでのリーダーシップがあると。よく最近は、Servant Leadershipという言葉がありまして、まあこの通りなんですけれども、私たちも“Mastery for Service”ですから、仕える人としてリーダーシップを取る。サービスをする人としてリーダーシップを取る。だけど、Servant Leadershipという一般化された言葉に対して、もう少し、我々の独自性を込めてはどうか、ということですね。そういうことで、KG-LEMSを展開して行こうというふうに思っております。

その中で、特にServant Leadershipの中で我々が注目しておりますのは、Authentic Leaderという発想で、自分に対する認識だったり、モラルであったり、それから、現代に要請される情報処理能力、コミュニケーション能力だったり、様々なもの、それから自己の透明性ですね、アカウンタビリティをしっかり有しているか、というようなことも、そういう教育の中で養成して行く、つまり人間教育をこれらの中でするわけです。

そこで、実は先程の、座学中心ではないということを申しましたけれども、こういう活動から、また新たな、私たちの学科が生まれて来ています。ボランティアもそうですし、KG-LEMSもですね、できるだけ、大学の科目として設定できるくらいの内容まで深めて行きたいと思っております。

そういう意味で、アクティブ・ラーニングにしてもこちらからやらせるのでなく、学生さんからやって来るのを、こちらが受け止めるというふうな形でやって行きたいと考えております。

それからもう一つ、こういうことを言うと、ますます勉強してないように見えてくるかも知れませんけれども、教室以外の活動ということですね**【スライド９】**。応援団だったり、体育会だったりと。彼等は最後にですね、勝っても負けても校歌を歌います。北原白秋・山田耕筰両先生が作られた校歌ですけれども、我々教育の理念ということが含まれております。そういうこともあります。

昨年９月、関西学院は創立125周年を迎

えさせていただきました。そのことをお知らせするポスターが三つあります。朝昼晩それぞれのキャンパスの写真を使用しておりますが、なぜ創立者の写真がないんだろうか、と思われるかも知れません。なぜ創立者の写真がなくてキャンパスの写真なんだろうか。しかも、このキャンパスは、関西学院が大学になるという時、西宮に移ってきた時に、つまり1929年に出来たキャンパスですから、85年くらいしか歴史のないキャンパスをなぜ写真にするのか。それが当初、私には疑問でした。むしろ、もっと創立者を前に出してですね、建学の理念をもっと堂々と前に出せばよいのに、キャンパスのイメージで作っているのですから、疑問だったわけです。

けれどもですね、このキャンパスそのものが、我々の建学の理念を語っているのだと、その理念を体現したキャンパスなんだということを、恐らく、広報室は正面から受け止めたんだろうと思います。

どういうことかと言いますと、このキャンパスはウィリアム・メレル・ヴォーリズによって、1929年に作られたわけですが、そのキャンパスの中に込められたデザインに、「キリスト教主義教育のキャンパスの形はこういうものである」ということが込められている**【スライド12】**。ロケーションには直線構造で表したり、総合学院として各校舎の配置があったり――つまり、学生達はここで過ごす時間の中で、この学校はどういう学校かという事を体得して行くのです。そういう意味では、生活感覚の内に学生に浸透できるキャンパスを与えられているということは、私たちが非常に感謝するところであります。ですから、皆さんどうぞ関西学院においでいただいてですね、実感していただければと思います。

教養教育の捉え方という本日の趣旨とは少しずれているかもしれませんけれども、まあ私たち関西学院大学では、寄付行為、また学則から、私たちの人間教育全般を「教育力」と捉えて、こういう展開をしておりますという一例を紹介いたしました次第です。これでお許しをいただきたいと思います。どうもありがとうございました。（拍手）

教養教育における「建学の精神」の可能性
私立大学ならではの教育の実践
＜関西学院大学の試み：ミッション展開＞

國學院大學教育開発推進機構
第1回教育開発シンポジウム
関西学院大学　田部　浩
関西学院大学教育学部教授・関西学院宗教総主事

1

関西学院新基本構想
2009-2014までの10年間に向けて

2018年度末に向け関西学院（幼稚園～大学院）
全体の方向性の再確認と具体的展開の確定
→ 2014年（創立125周年）記念の核となる試み
◆学院：21世紀ミッションステートメント策定
◆法人：教学・経営一体化によるガバナンス改革
◆各学校：グローバル化の中での教育展開
SGU（大学），SGH（高等部），IB（千里国際）など

2

関西学院ミッションステートメント 2009
Grubel院長起草

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びの共同体」として、一人ひとりの人が、自分の生涯をかけて取り組むべき使命を見出すよう導き、思いやりと誠実さをもって社会を変革することにより、スクールモットー "Mastery for Service" を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命とします。

Kwansei Gakuin, as a learning community based on the principles of Christianity, inspires its members to seek their life missions, and cultivates them to be creative and capable world citizens who embody its motto, "Mastery for Service," by transforming society with compassion and integrity.

3

*Mission School*から*School with the Mission*へ
関西学院の果たすべき「ミッション」とは

ミッションステートメントでの二つのキーワード
・キリスト教主義「学院憲法（1889）第一条」
principles of Christianity → 現行「学院寄附行為第3条」
・世界市民　創立者（初代院長）ランバスの生涯
第一次大戦時に来朝，南海を拠点に生涯を捧げ
・*Mastery for Service* 第4代院長ベーツ提唱（1912）
創立第十二号館からの転換を象徴するスクールモットー
創立（1889）→文部省認可（1890）→上ケ原移転（1929）→大学設立（1932）

4

新中期計画の基本：ミッションステートメント策定
→ ミッション浸透推進プログラムとしての展開

・第一段階　提示・発信　（know）
KGスピリットブック編集
『輝く自由　関西学院　その精神と理想』
・第二段階　受容・理解　（understand）
自校教育プログラム　キリスト教学，チャペル，「聖学」学
インクルーシブ・コミュニティ宣言
・第三段階　体現・実践　（achieve）
KGLEMSプログラム（Kwansei Gakuin Leadership Embodying "Mastery for Service" Programs）展開

5

自校教育プログラムの展開
直接的に「建学の理念理解」に触れるもの

①キリスト教学：初年次教育科目としての展開
必修（2学期間　4単位）各学部宗教主事担当
中心的テーマ「なぜ関西学院か」
学院キリスト教主義への基礎理解を提示
②チャペル・アワー：毎週水曜の学部別プログラム
建学の理念理解を提示
※教主事企画により学院内外から講師を依頼
年数回の全学プログラム開催（春・秋・クリスマス）
③「聖学」学：全学開講科目　半期2単位
学院史を通じて，建学の理念理解を提示

6

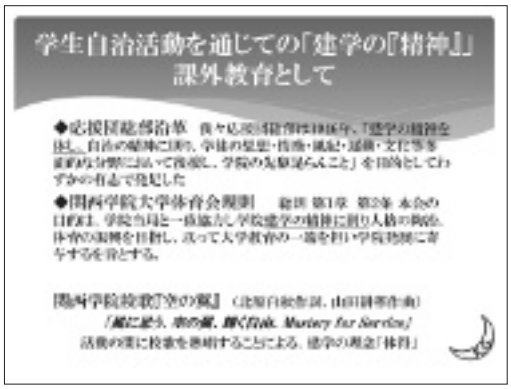
7

KG-LEMSプログラム
建学の理念のActiveな学び

"Mastery for Service"の体現とは
1995年　阪神淡路大震災　ボランティア元年
関西学院教授委員会提議（*今こそ求められるMastery for Service*）
関西学院ヒューマンサービスセンターへの提案（日常的ボランティア）
Serviceの主体（Master）としての自己認識

◆関西学院ならではのリーダーシップ感覚養成
Service Learning / Servant Leadership の教学実践場として
Authentic Leader　自己認識，道徳観，倫理的理性力，透明性
→ 学院一貫教育としてのKGLEMS構築

8


学生自治活動を通じての「建学の『精神』」
課外教育として
◆応援団総部沿革
◆関西学院大学体育会規則
『蔦に絡む、青の蔦、輝くEnk. Mutiny for Service』
活動の常に校歌を歌唱することによる、建学の理念「体得」

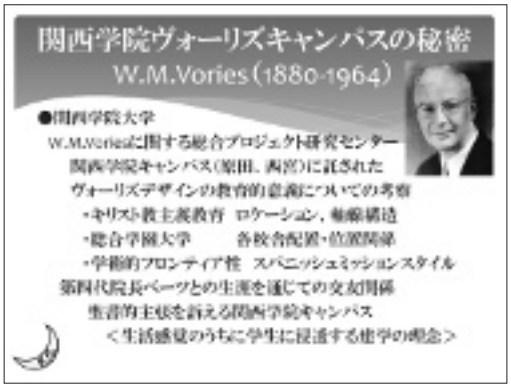
9

もうひとつの関学らしいエレメント
学院創立125周年記念ポスターへの疑問

10

創立者ランバスでも、創立地原田でもない
なぜ上ケ原時計台か？
現在の関西学院スクールアイデンティティは、
1929年のヴォーリズ・キャンパスによって形作られた！
↓
学生の生活の場としてのキャンパスそのものが
「建学の理念」を語り伝えてきた 関学の原風景
図書館やチャペルに出なくても、学生はそこで過ごす！

11


関西学院ヴォーリズキャンパスの秘密
W.M.Vories（1880-1964）
●関西学院大学
W.M.Voriesに関する総合プロジェクト研究センター
関西学院キャンパス（原田、西宮）に託された
ヴォーリズデザインの教育的意義についての考察
・キリスト教主義教育 ロケーション，車廻構造
・総合学園大学 各校舎配置・位置関係
・学術的フロンティア性 スパニッシュミッションスタイル
第四代院長ベーツとの生涯を通じての交友関係
生涯学習を支える関西学院キャンパス
＜生活感覚のうちに学生に浸透する建学の理念＞

12

お聞きいただきありがとうございました。
ぜひ関西学院をお訪ね下さい。

13